

祝 全国スポーツ少年団 剣道交流大会出場

大山町剣道スポーツ少年団小学生団体と中学生男子個人の谷口陽平選手（中山中）、中学生女子個人戦の徳永選手（名和中）が、3月25日から27日の3日間、東京武道館で開催された「第40回全国スポーツ少年団剣道交流大会」に鳥取県代表として出場しました。

同団は、昨年10月の県予選会で小学生団体、中学生男子及び女子個人戦の全ての部門で優勝し、この度の出場となりました。



▲全国大会出場メンバー

小学生団体は、福岡県、岩手県チームと予選リーグで対戦し2位となりましたが、決勝トーナメントには進出できませんでした。

中学生男子個人戦の谷口選手は、岐阜県、青森県の代表と、中学生女子個人戦の徳永選手は、兵庫県と青森県の代表と予選リーグで対戦しましたが、両選手とも善戦及ばず、決勝トーナメント進出はかありませんでした。

今回も沖縄県代表に、本町と人材育成交流事業を行っている嘉手納町から少年剣道クラブの選手が出場していました。最終日には、両チームで合同練習や交流試合を行うなどして有意義な大会出場となりました。



▲嘉手納町少年剣道クラブの皆さんと一緒に

長野城跡 発掘調査概要報告

大山町教育委員会では、県道松河原名和線（豊成2工区）道路災害防除工事にもなつて、平成29年11月6日から平成30年3月30日にかけて長野城跡の一部（417㎡）の発掘調査を実施しました。

残念ながら、現地や県道災害防除工事の進捗状況から現地説明会を開催することができませんでしたのでこの紙面にて紹介します。

長野城跡は、大山町豊成に所在し、日本海に面する標高約30～38mの低丘陵上に築城された中世の城館跡です。陣を張るために地形を平坦に整えた曲輪と、その周囲に設けられた土塁、堀から構成されます。

この城跡については、古文書等の歴史資料が確認されていないため、築城の時期や城主等については不明ですが、その立地から日本海側の海岸防護の砦城の一つとして築かれたものと考えられています。

今回の調査は、幅5m、長さ92mという細長い調査区で、その範囲内から約50mに及ぶ土塁や溝状遺構などを検出しました。

土塁が築かれる以前の土壌について自然科学分析をした結果、土塁は

鎌倉時代以降のものであることがわかりましたが、遺構にもなう遺物がなかったため、造成時期を明確にすることはできませんでした。

調査の結果、この土塁は、内側を約1～2mの幅で浅く溝状に掘って、その土を外側に最大で1mの盛土をして築いてあることが確認でき、少しですが長野城跡の謎に迫ることができました。

（人権・社会教育課 文化財室）



▶1m以上盛られた土塁